



受賞作品			
第24回本格ミステリー大賞 小説部門 第77回日本推理作家協会賞 長編および連作短編集部門 第37回山本周五郎賞 『地雷グリコ』 青崎 有吾 // 著 (F アオ)	射守矢真兎(いもりや・まと)。女子高生。勝負事に、やたらと強い。平穩を望む彼女が日常の中で巻き込まれる、風変わりなゲームの数々。次々と強者を打ち破る真兎の、勝負の先に待ち受けるものとは-。本格頭脳バトル小説。	第29回日本絵本賞 大賞 『ゆうやけにとけていく』 ザ・キャビンカンパニー // 作 (E9 ザ)	ジャングルジムで遊ぶ男の子、悔しくて石を蹴る女の子、買い物帰りの親子…。それぞれのいろいろな感情を、夕焼けがやさしく包み込む。ページをめくる度に少しずつ沈んでいく太陽が印象的な、ノスタルジックな雰囲気絵本。
第77回日本推理作家協会賞 長編及び連作短編集部門 『不夜島』 荻堂 顕 // 著 (F オギ)	第二次世界大戦終結後、米軍占領下の与那国島では、ありとあらゆるものが売買される密貿易が行われていた。腕利きのサイボーグ密貿易人・武庭純は、謎のアメリカ人女性から「“含光”を手に入れろ」という奇妙な依頼をされ…。	日本絵本賞 『おきにいりのしろいドレスをきて レストランにいきました』 渡辺 朋 // 作 高畠 那生 // 絵 (E9 タ)	お気に入りの白いドレスにケチャップがついてしまった。がががーん! 女の子のショックは、ママにパパに赤ちゃんに、パンにもビンにも伝わって、町中みんなが大騒ぎになり…。擬音だけでお話が進んでいく、ナンセンス絵本。
第55回大宅壮一ノンフィクション賞 『鬼の筆』 春日 太一 // 著 (912. 7 ハ)	「七人の侍」「砂の器」「八甲田山」…。1950年代～70年代、脚本家として次々と名作を書いた橋本忍。生前のインタビューや創作ノート、関係者への取材をもとに“全身脚本家”驚愕の真実と知られざる全貌に迫る。	『かぜがつよいひ』 屋田 弥子 // 作 シゲリ カツヒコ // 絵 (E8 シ)	強い風が吹く日、お母さんが買い物に行きました。留守番をする姉と弟は、しりとりをして遊ぶことに。ところが外では、2人が口にしたもの、つぎつぎと風で飛ばされていき…。圧倒的画力で描く、ナンセンスしりとり絵本。
第37回三島由紀夫賞 『みどりいせき』 大田 ステファニー欽人 // 著 (F オオ)	このままじゃ不登校になるなあとthinkしながら、高2の僕は小学生の時にバッテリーを組んでた一個下の春と再会した。そしたら一瞬にして、僕は怪しい闇バイトに巻き込まれ始めた…。	『どんぐり』 たての ひろし // さく (E4 タ)	どんぐりが梢から落ちてくる。どんぐりは生きようとしている。けれど、ほとんどは死んでいく。誰かの命は誰かの糧になっている。森はそうにできている-。季節を越えてめぐる生命の気配を描く。
第12回河合隼雄物語賞 『休館日の彼女たち』 八木 詠美 // 著 (F ヤギ)	ホラウチリカが大学の恩師から紹介された仕事は、古代ローマの女神像のおしゃべり相手だった。有機物と無機物の境界すら越えて、ホラウチリカとヴィーナスは手に手を取り合い駆け出していく…。	第11回高校生直木賞 『ラウリ・クースクを探して』 宮内 悠介 // 著 (F ミヤ)	ソ連時代のエストニアに生まれたラウリは、黎明期のコンピュータ・プログラミングで稀有な才能をみせ、魂の親友と呼べるロシア人のイヴァンと出会う。だが二人は時代の波に翻弄され…。

※こちらに記載されている絵本は、児童コーナー(よい絵本)にあります。

ドラマ化作品			
笑うマトリョーシカ 出演:水川あさみ, 玉山鉄二 ほか 『笑うマトリョーシカ』 早見 和真 // 著 (F ハヤ)	圧倒的な魅力で、官房長官に上り詰めた青年代議士と秘書。彼らに違和感を持った女性記者が、隠された過去を暴くため、取材を重ねるが…。	ブラックペアン シーズン2 出演:二宮和也, 竹内涼真 ほか 『ブレイズメス1990』 『スリジェセンター1991』 海堂 尊 // 著 (F カイ)	才外科医天城を大学病院に連れ帰るべく、モナコへ飛んだ研修医の世良。天城とコンタクトをとることに成功したものの、彼はとんでもない守銭奴だった-。 天才外科医・天城は、「スリジェ・ハートセンター」設立資金捻出のため、VIP患者の公開手術を目論む。桜宮に永遠に咲き続ける「さくら」を植えるという天城と世良の夢の行く末は？
嗤う淑女 出演:内田理央, 松井玲奈 ほか 『嗤う淑女』 中山 七里 // 著 (F ナカ)	稀代の悪女”蒲生美智留。彼女は天賦の美貌と巧みな話術で、人々の人生を狂わせる…。ノンストップ・ダークヒロイン・ミステリー。		

映画化作品	
めくらやなぎと眠る女 声の出演:磯村勇斗, 玄理 ほか 『めくらやなぎと眠る女』 村上 春樹 // 著 (F ムラ)	二十五歳の「僕」は、会社を退職し実家に戻ってきた。久しぶりに再会したいとこの通院に付き添うと、過去の出来事を思い出し始め…。

